

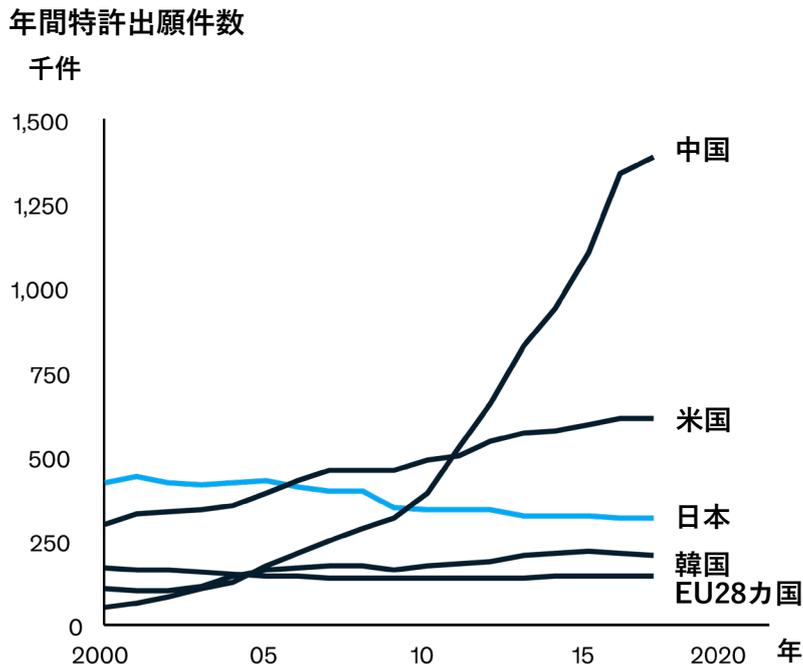
試験科目名	受験番号
小論文	

2 枚のうち 1

日本の研究開発費総額の対 GDP 比率は世界最高水準にあるが、特許取得件数は毎年低下し続けている (図 1)。それに伴い、世界の特許取得件数における日本の企業や研究機関の割合も大きく低下している。また、日本の全要素生産性*の伸び率が他国に比べて低い(図 2) ことから推察されるように、日本企業における研究開発投資が技術革新(技術の進歩)や事業化に結びつきにくくなっている。

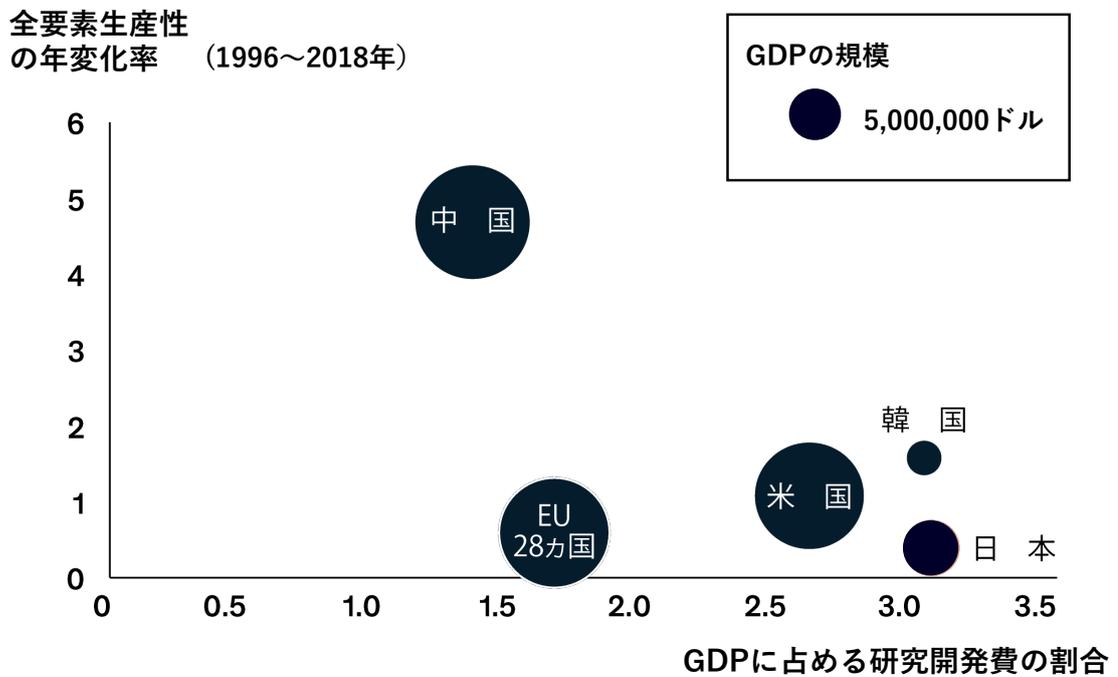
日本企業の研究開発投資が技術革新や事業化に結びつき、次の研究開発に再投資されるポジティブな循環を生み出すために、どのような改善を行うべきか、技術経営の観点(①人材・組織、②ファイナンス、③戦略・マーケティング、④知財)から、あなたの考えを 800 字以上 1000 字以内で論じなさい。なお、特定の産業分野を想定して論じてもよい。

* 増加した生産のうち、労働や資本などの量的な生産要素の増加では測れない技術の進歩や生産の効率化のような質的な増加のこと。技術の進歩の指標として用いられている。



出典：World Intellectual Property Organization

図1 2000～2018年における年間特許出願件数の推移



出典：OECD, EU

図2 全要素生産性の年変化率と GDP に占める研究開発費の割合